

小学生(高学年)向け



『髪がつなく物語』

別司芳子／著
文研出版 ¥1,300(税別)

ヘアドネーションとは、髪を寄付する取り組み。集まった髪は工程を経て、医療用ウィッグに生まれ変わり、必要としている子どもたちの元へ届けられる。髪を通して、人と人との心のつながりを感じることでできる作品。



『カランポーのオオカミ王』

ウィリアム・グリル／作 千葉茂樹／訳
岩波書店 ¥2,000(税別)

シートの『オオカミ王ロボ』の物語をベースにその後を描いた絵本。シートはロボとの出会いを通じて大きく生き方を変える。ハンターをやめ、野生動物の保護活動やボーイスカウトの初代団長となり、環境運動の先駆けとなってゆく。



『クニマスは生きていた!』

池田まき子／著
汐文社 ¥1,500(税別)

秋田県の田沢湖で70年前に絶滅したと思われていたクニマスが、山梨県の西湖で生き延びていた。クニマスの復活と湖の再生に人生をささげた三浦さん親子の姿に、「命」と「環境」について考えさせられる、感動のノンフィクション。



『なみきビブリオバトル・ストーリー』

赤羽じゅんこ、松本聡美／作 黒須高嶺／絵
さ・え・ら書房 ¥1,400(税別)

図書館で行われる、本を紹介しあうゲーム、ビブリオバトルに参加することになった4人の小学生。それぞれに思い入れのある本を紹介し、本を通してお互いを知ることになる。ビブリオバトルが楽しくわかり、本をもっと読みたくなる一冊。



『奮闘するたすく』

まはら三桃／著
講談社 ¥1,400(税別)

小学5年生の佑はヘルパー見習いとして祖父のデイサービスに行くことになった。孫の目線から老人介護の様々な問題を見つめる。登場人物は皆いきいきと描かれ、物語を明るく進めていく。介護する側、される側の気持ちを考える契機となる一冊。



『ぼくたち負け組クラブ』

アンドリュー・クレメンツ／著 田中奈津子／訳
講談社 ¥1,400(税別)

本を読むことと空想が大好きなアレックは、「負け組クラブ」という読書クラブを作る。みんなが入りたくないような名前を付けたはずだが、次第に仲間が増え、アレックの読書漬けの生活に変化が現れる。アレックが勤める本リストは必見。



『Mr.トルネード』

佐々木健一／著
小学館 ¥1,250(税別)

今では安全な乗り物の一つとされている飛行機だが、数十年ほど前までは謎の墜落事故が起きていた。気象学者の藤田哲也は墜落の原因となるダウンバースト現象を発見し、世界の航空事故を激減させた。アメリカで活躍した、日本人の数奇な生涯の物語。



『6この点』

ジェン・ブライアント／文 ポリス・クリコフ／絵 日当陽子／訳
岩崎書店 ¥1,700(税別)

5歳のときの事故と病気によって両目の視力を失ったルイ・ブライユ。自分で読み書きをしたいと思うようになり、皮や釘を使ってアルファベットを習う。盲学校で出会った暗号から、点字を発明したルイ・ブライユの半生を描いた本。

その他のおすすめの本

●『青いスタートライン』

高田由紀子／作 ふすい／絵 ポプラ社 ¥1,300(税別)

●『いくらかな?社会がみえるねだんのはなし1~4』

藤田千枝／編 大月書店 各¥2,000(税別)

●『大林くんへの手紙』

せいのあつこ／著 PHP研究所 ¥1,300(税別)

●『香菜とななつの秘密』

福田隆浩／著 講談社 ¥1,300(税別)

●『唐木田さんち物語』

いとうみく／作 平澤朋子／画 毎日新聞出版 ¥1,400(税別)

●『この本をかくして』

マーガレット・ワイルド／文 フレー・ブラックウッド／絵 アーサー・ピナード／訳 岩崎書店 ¥1,500(税別)

●『タイガー・ボーイ』

ミタリ・パークス／作 ジェイミー・ホーガン／絵 永瀬比奈／訳 鈴木出版 ¥1,500(税別)

●『珍獣ドクターのドタバタ診察日記』

田向健一／著 ポプラ社 ¥1,200(税別)

●『ひらけ蘭学のとびら』

鳴海風／著 関屋敏隆／画 岩崎書店 ¥1,500(税別)

●『ぼくとベルさん』

フィリップ・ロイ／著 櫛田理絵／訳 PHP研究所 ¥1,400(税別)

●『モノのはじまりえほん』

荒俣宏／監修 ふわこういちろう／イラスト 日本図書センター ¥1,500(税別)

●『レイミー・ナイチンゲール』

ケイト・ディカミロ／作 長友恵子／訳 岩波書店 ¥1,600(税別)